

文三劇場 2006

06年6月2日(金)説明会資料

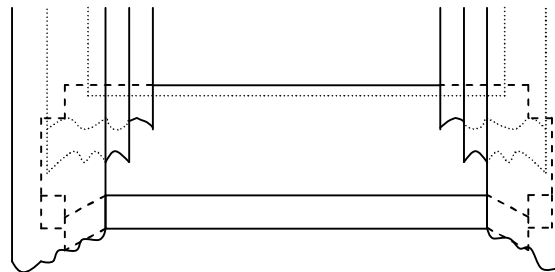
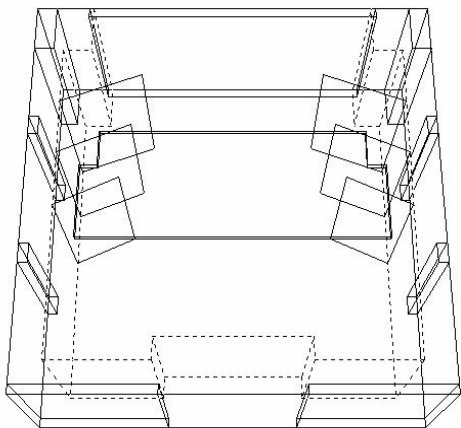


こんにちは。文三劇場執行部委員長の泉です。本日文三劇場2006の説明会に集まっていたいただきありがとうございました。今年も文三劇場では駒場祭で芝居をうつ参加団体を大募集しています。演劇の経験などはまったく問いません。演劇に少しでも興味がある人、やってみたいと思う人、是非これを機会に参加してみたいかがでしょうか?間違いなく深く胸に残る大学生生活の思い出を作ることが出来ると思います。さて、本日は文三劇場の企画についてより皆さんに理解していただき、参加を検討中の団体さんに少しでも参考になればと思っております。なにか質問などございましたら、説明会終了後に気軽にお聞きください。また、メールでも質問は受け付けております。ホームページのフォームを利用するか執行部メールアドレス(sangeki_komaba@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

1 文三劇場とは

文三劇場(略称三劇)は毎年駒場祭において行なわれる企画で、文三をはじめとした1年のクラス団体をメインに有志やサークルなどが駒場キャンパス内にある多目的ホール、駒場小空間にて芝居をうつというものです。その歴史は25年以上前の駒場祭パンフレットに既に記載のある伝統のある企画です。はじめは、学生闘争時のクラス分離を危惧してそれぞればらばらに芝居をうっていた文三のクラスが、どうせなら一緒にということで現在の形式のものが確立し、文三劇場という名称がついたようです。

開催時期は11月24日~26日までの駒場祭の本公演期間に加え、18日から24日までをプレミア公演の期間とします。参加団体はそれぞれ本公演で1回、プレ公演で1回の計2回公演を行なうこととなります。公演場所はキャンパスプラザ多目的ホール、愛称駒場小空間です。コミュニケーションプラザに隣接するこのホールは、照明・音響ともに設備も整っており、また他の劇場と異なり舞台客席を1から作っていくため公演ごとにカスタマイズが可能なものとなっています。文三劇場では幕使い、オーソドックスな舞台・客席を作ることとなります。



客席側から舞台を見る
手前が客席、奥が舞台となる

参加団体について、1年クラス団体がメインと上記していますが、制限は設けません。クラス団体、有志、サークル団体など、演劇に志のある人ならどなたの参加も歓迎します。2006年度の文三劇場では8団体の参加を募集します。また応募が8団体を上回る場合、1年クラス団体を優先した上で抽選によって参加団体を決定します。応募方法については後述していますので、そちらを参考にしてください。なお、芝居をうつということは役者だけで成り立っているわけではありません。大道具や小道具などスタッフあってこそです。ある程度の人数は必要になると思いますので、公演が打てる程度の人数確保はしていただけますようよろしくお願いします。

2 運営委員制度について

文三劇場では、毎年各団体2名程度の運営委員を出していただき、文三劇場執行部とともに文三劇場の運営に携わっていただいています。運営委員になった方には、執行部と団体のパイプ役として動いていただくほか、制作セクション、舞台セクションとわかれそれぞれ文三劇場の運営のお手伝いをさせていただきます。運営委員制度についての詳細は、第一回運営委員会の際に詳しく説明したいと思います。

3 今後の年間スケジュール

文三劇場2006のおおまかな年間スケジュールです。現時点での予定ですので、変更する可能性もあります。またこれは執行部との予定であり、これと平行して各団体芝居作りを進めていくようになります。

6月	3日～25日 参加団体募集期間 26日 抽選（応募多数の場合）結果連絡 28日 第一回運営委員会 （各参加団体の運営委員の方に参加していただき、今後の詳しい予定の説明や仕事の割り振りを行ないます）
7月	未定 第2回運営委員会 （プランシート（舞台、照明）を配布し、記入の仕方などについて説明します。）
8月	半ばごろ 台本、プランシートの提出。 * 演出などでプランやシーンなどが変わる場合にはそのつど連絡をいただければ可能です。
9月	未定 第三回運営委員会 本公演時間割り振り 音響・照明オペ講習会（予定）
10月	各参加団体の運営委員で、舞台セクションに入った方にはこの時期、駒場で行なわれている芝居公演の仕込みのお手伝いに参加していただきます。
11月	13日～ ホール入り リハーサルやホールを使った練習、明かりあわせなど。 18日～23日 プレミア公演 24日～26日 駒場祭公演

4 予算について

執行部が徴収する運営費。

文三劇場では公演を行なうにあたって、舞台の設営や制作、広報、ホールカンパなどをこの運営費から出します。今年は参加団体が8団体で一団体4万円強を予定しています。まだ本決定ではなく、変更の可能性もあります。また、駒場祭終了後余った分は還付金として各団体にお返しいたします。

駒場祭委員会の企画保証金

五月祭でクラス参加した団体さんなどは聞き覚えがあるかもしれません。駒場祭に参加するにあたって、駒場祭委員会の方に支払うものとなります。企画保証金は10000円ですが、駒場祭において運営委員の仕事をこなせば全額返還されます。

団体ごとの費用

芝居を作るにあたって、各団体ごとに使用する大道具や衣装代などは**全額自己負担**となります。注意してください。

各団体負担していただくのは上記3つになります。団体ごとにかかる芝居の制作費は団体によって大きく異なりますが、少ないところで5000円から多いところで9万円程度となっています。また、駒場祭ではカンパや駒場祭委員会からの現金援助などがあり、クラス参加の団体でも1団体あたりの負担はそこまで大きくなく、芝居をうつことが出来ると思います。

5 参加登録方法

最後に参加団体登録についてです。今年度も昨年度同様、すべての団体は文三劇場2006のHP上の申し込みフォームから申し込みをしていただくこととなります。今年度の募集参加団体数は**8団体**です。応募がそれよりも多数だった場合は抽選となりますが、**一年生のみ**のクラス団体は優先的に参加できるという方針で行きたいと思います。文三劇場の理念に従っての判断ですので、ご了承お願いいたします。

応募期間： **6月3日～25日**

文三劇場2006HPの申し込みフォームより

(HPアドレス <http://sangeki2006.rakugan.com/>)

抽選日： 6月26日 結果が出次第メールにて結果をご報告いたします。

そのほか、質問疑問点などあれば、執行部(sangeki_komaba@yahoo.co.jp)までご連絡ください。なおその際タイトルは「文三劇場2006」としてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

また、文三劇場執行部では一緒に文三劇場を裏から支えていく執行部メンバーを募集しています。興味のある方は気軽に執行部メンバーまで問い合わせください

参考 過去に参加した団体と演目です。

2005 年

劇団ウソクサイフ	カリーde コメディ
劇団エトネ	イケメン、なれますかね？
劇団おっとり	MID SUMEER CAROL ~ ガマ王子 VS ザリガニ魔人 ~
劇団おといる	豆腐の角で...
劇団たつか	僕は夢から覚めない
劇団ナイル	眠れる砂漠
劇団ニセガチャピン	伊集院という名の輪舞曲
東京大学フラメンコ舞蹈団	第 19 回定期公演
パブリカプリウス	Angel Meat Pie
文三 4 組	Box in myself
einander	W は Oz の少女の夢を見るか
P069	東京蛇 / in/out

2004 年

劇団 Radish	カレッジ・オブ・ザ・ウインド
INTER 2004	MAMMA MIA!
劇団おといる	0.08 / 宝クジが当たった男
劇団我楽多	ごはんのじかん
文三 15 組	シンデレラ・ストーリー
劇団うそくさい SEVEN	ウェディングプランナー!?
うにくろ	まちわびて
劇団信天翁	樽
劇団たつか	お気に召すまま
劇団歩絵夢	Angel Tear ~ 人形の見る夢 ~
東京大学フラメンコ舞蹈団	第 17 回定期公演
スペーストラベラーズ	文三 4 組的スペーストラベラーズ

2003 年度

文三 16 組	お月さまへようこそ
文三 17 組	さららばい、もみの木
ACT 15	スナフキンの手紙
オムニエンジン	ある日、僕らは夢の中で出会う
劇団我楽多	ROCK
劇団 Radish	キャンドルは燃えているか
激団「居酒屋風食堂タヴェルナ」	HOME
劇団たつか	ある日、僕らは夢の中で出会う
劇団 第二新卒	ラブコングラチュレーションズ 2
フラメンコ舞蹈団	第 15 回定期公演
鉛男	一人こけし

2002 年度

文三 4 組	桃山公園夢錦絵
文三 11 組と上クラ有志	Run for your Wife
文三 15 組	赤い花
いろは	桃色月に鈴の夢
オムニエンジン	八月のシャハラザード
劇工舎プリズム	バンク・パン・レッスン
劇団 "satoo.neo"	パレード旅団

劇団我楽多	トリカエバヤ
劇団 Radish	ハックルベリーにさよならを
新妻ハットトリック	銃から飛び出すピンク豚～誤訳と魅惑の黄金比～
フラメンコ舞踏団	第13回定期公演
むかみ座	一蝶

これ以外にも、過去には以下のような脚本を公演しています。

『真夏の夜の夢』	『ら抜き殺意』
『Be Here Now』	『ビルジング』
『半神』	『frozen beach』
『ショウ・マスト・ゴー・オン』	『まほうつかいのでし』
『アルジャーノンに花束を』	『悪魔のいるクリスマス』
『TRANS』	『12人の優しい日本人』
『天使は瞳を閉じて』	『キル』
『カレッジ・オブ・ザ・ウインド』	『ウチハソバヤジャナイ』
『嵐になるまで待って』	『眠れる森の死体』
『銀河旋律』	『新・幕末純情伝』

文三劇場に実際に参加した団体の経験談です。どうぞ参考にしてください。

三劇は大人に支えられて作る子供の演劇である。これは間違いない。三劇をやっていく上で「大変だな」と思う出来事は何回も起きるわけだが、その大変さの後ろでは、物理的にさらに大変な諸々のことをやってくれているスタッフ、ならびに駒場演劇関係者の方々がいるわけである。これは決して忘れちゃいけない。そう忘れちゃいけないのだが、同時に忘れなきゃいけない。禅問答のようだが真実なのだからしょうがない。終わった頃に思い出して感謝する、そのくらいを大人の方々も望んでいるのではないかな。

「子供」に演劇をさせてあげようと、駒場演劇界の「大人」の方から言っているわけである。ただの制度として続いているという面もあるのかもしれないが、制度なんて合議して「やーめた」としちまえばすぐに終わってしまうものである。それでも続いている。なぜだろう。

実は三劇で「純粋な演劇」を見られるのではないかと、皆ひそかに期待しているのだ。それ以外に答えは見つからない。今カップラーメンが出来るまで三分必死に考えてみてそうなのだからそうだろう。

演劇というものが元来子供のものである。「演劇やってる」と聞けば、なんとなく「大人になれない人」みたいな気がしないだろうか。そういう境界人が演劇をやっている。蛇足だが昔の日本の芸能も河原とか、ずいぶん境界的な場所で行われていたと聞く。で、駒場の「大人になれない大人」達は考える。「うちらは境界人として生ぬるいのではないかな。もう真面目に演劇をやってしまったている。」

そういうわけで駒場の子供達に呼びかける。「ちょっと君達、演劇をしてみないかい。」そうして演劇を作ることになった子供達は、純粋な境界人である。観客から演劇を作る側に移行する境界、もしくは、今まで演劇を見たことさえなくて、演劇の存在しない世界から演劇のある世界へ移行する境界、その真っ只中にいるわけだ。その純粋な境界人が作る純粋な演劇が見れるのではないかな、そう思っているのである。

結局何が言いたいのかって？つまり君達は今絶好の通過儀礼の機会が提供され、それをみすみす棒に振るかどうかの境界に立っているわけだ。三劇をやるのは確かに大変だ。でもその大変さは、純度の高い大変さ、言い換えれば、演劇をやる醍醐味の部分なのだ。純度の高さは当然である。冒頭に書いたように、純度が高まるようにそのほかの部分も大人が支えてくれているのだから。

最近の大人は余裕がない。だから子供に通過儀礼をさせてくれる人達なんてそうそういない。受験が通過儀礼くらいに思っているのではないかな。なのに駒場の「大人になれない大人」達が、通過儀礼の場を提供しようとしているのだ。これはやるしかないのではないかな。「つまらない大人になってしまう前に、境界に立ってみたい。そこでしか見えない景色が見たい。」そう思える人を三劇は待っている。